

地域に新たな息吹を呼び覚ます：成大創聯のイノベーション実践

莊笙揚

国立成功大学イノベーション&アントレプレナーシップ連合会 第9・10期
会長

本稿では、国立成功大学イノベーション&アントレプレナーシップ連合会（以下、創聯）が台湾の左鎮（ズォチェン）地域において実施したイノベーションプロジェクトの全貌をご紹介します。このプロジェクトは約1年半にわたり進められ、以下の4つの段階に分けられます：

1. 学際的協働の開始
2. 課題の発見
3. ソリューションの設計と検証
4. イノベーション実践の継続

以下では、各段階における重要な進展や成果について、具体的に解説します。これを通じて、「共学・共創」の精神がどのように具現化されていったかを振り返ります。

創聯会はこれまで、「起業する必要はないが、起業家精神を持つことは必要である」という理念のもと、キャンパス内外で革新的な取り組みを推進してまいりました。その強みは、創造的思考を活用して既存の課題に新たな解決策を生み出すことにあります。今回、活力を失いつつある左鎮に出会い、私たちはどのように新たな息吹を吹き込んだのでしょうか。そのプロセスをご紹介します。

第1段階：学際的協働と地域再生の起点

創聯会ではこれまで、学生自身が直面する課題を出発点とし、創意工夫と商業的価値を兼ね備えた解決策を模索する活動を行ってきました。しかし今回のプロジェクトでは、抽象的な議題ではなく、実際の現場に足を運び、地域課題に取り組む初めての機会となりました。

このプロジェクトのきっかけは、国立成功大学の張秀慈教授（成大「悪地協働」USRプロジェクト担当）からのご紹介で、山海屯社会企業の許明揚（シュー・ミンヤン）代表と出会ったことです。

台湾の多くの歴史的街並みは、時の流れとともに衰退の危機に直面してき

ました。左鎮や新化では、老朽化した建物が忘れ去られようとしていました。しかし、山海屯の取り組みにより、それらの建物に新たな命が吹き込まれました。地域再生の力により、かつての記憶が再び甦ったのです。

学生たちは熱心に耳を傾け、心を動かされました。それはおそらく、私たちがそれまで、「創業」が商業的利益を超えて、一片の土地の記憶を守るための行為であり得るという考えに至ったことがなかったからでしょう。許執行長は創聯会のために非常に意義深い講演をしてくださいました。ある学生は文化と商業の相互支援の可能性について熱絡に質問し、また別の学生は古い建物に新たな生命が宿る様子に浸り、なかなかその余韻から抜け出せませんでした。この瞬間、私たちの心には不可逆的な化学変化が起きたのです。



▲許執行長による講演「文化が商業を導く一街区再生と社会デザイン」

第2段階：左鎮での課題発見

翌週、私たちは初めて左鎮を訪れました。許代表が案内役を務め、私たちを左鎮の路地へと導き、使われていない空間や歴史的建物の潜在的な価値について詳しく説明してくださいました。時代の流れに晒され、ひび割れや剥がれた塗装のある建物を目にしたとき、左鎮の歴史がその姿を通して生き生きと浮かび上がるように感じました。

昼食後には、許代表の提案で「左鎮の公共市場をどのように活性化できるか」「遊休スペースをどのように再利用するか」といったテーマについてグループディスカッションを行いました。議論の中で出されたアイデアを整理し、草案としてまとめました。このプロセスを通じて、左鎮に新たな活力をもたらしたいという情熱が私たちの中に芽生えました。



▲許執行長の案内で創聯会が左鎮を視察

第3段階：共創の中で得た成長

左鎮訪問後、私たちは3週間をかけて草案を具体的な提案に仕上げました。ワークショップでは、HMW (How Might We: どのようにすれば～できるか) の手法を活用し、課題の本質に何度も立ち返りながら解決策を深化させました。また、チーム内で課題や痛点を共有し、それらを4象限マトリックスに整理して最終的な解決目標を明確化しました。さらに提案内容を具体的なシナリオに落とし込み、漫画形式で製品やサービスの利用シーンを描きました。

成大創産所の楊佳翰先生は、プロジェクトの初めに「デザイン思考は直線的なプロセスではなく、常に課題の本質に立ち戻りながら反復的に進めていくものだ」と私たちに強調しました。このデザイン思考の一連の過程を通じて、学生たちが提案の完成に向けて努力する姿を見ることができました。また、多様な視点を交換し合うことで、その交流が活動全体において確実に根付いたと実感しました。

最終的に2つのチームが異なる方向性の提案を完成させました。1つは遊休スペースを密室脱出ゲームとして活用し、子どもたちが謎解きを通じて楽しめる空間を提供する内容です。もう1つは、RPG形式の体験型プログラムを通じ、観光客が没入型の体験で左鎮の歴史や文化を学ぶ内容でした。



▲創聯会の期末 Pitch Day にて、張秀慈先生と先輩方がチームにフィードバックを提供

第4段階：新たな活力の継続

これらの提案は、単なるアイデアに留まることなく、実現に向けた具体的な歩みを進めました。「左鎮地域型リアル謎解きゲーム」という革新的な構想のもと、2024年3月と5月に台湾教育部のクラウドファンディングプラットフォームおよび成功大学の「創新圓夢計画」から資金支援を獲得しました。このプロジェクトでは、左鎮の歴史、文化、そして特色をゲームを通じて新たな形で表現し、地域社会の魅力と観光資源としての潜在能力を最大限に引き出すことを目指しました。また、チームの新たな活力と創造性を地域に注ぎ込み、左鎮の記憶を未来に永遠に刻むことを目指しています。

資金支援と地域からのサポートを受け、2024年7月には左鎮小学校で2日間にわたる「左鎮少年の冒険—悪地探検」キャンプを開催しました。このキャンプでは、地元の子どもたちが自らの視点と想像力を活かし、左鎮の歴史に基づく物語を作り上げました。また、チームが開発した最初のゲーム「初巡左鎮：甘蔗大盗（サトウキビ泥棒）の秘密」をプレイし、そのフィードバックを基に謎解きの設計をさらに改良しました。これにより、子どもたちの創造力や論理的思考力を高めるだけでなく、地元の歴史や文化についての理解を深めることができました。さらに、このプロセスを通じて、ゲームの実現可能性を実践的に検証しました。キャンプの成功は、プロジェクトの目標達成にとどまらず、初めて地元の子どもたちと深く関わる機会を得たチームメンバーにとっても忘れられない思い出となりました。子どもたちとの交流や共有した笑顔は、私たちの心に永遠に刻まれています。

2024年10月には、ゲーム「初巡左鎮：甘蔗大盜の秘密」が正式に完成しました。このゲームは日本統治時代を背景としており、左鎮が当時、製糖業の発展により繁栄し、また玉井や南化地区への交通の要所として重要な役割を果たしていた時代を再現しています。しかし、百年後の現在、製糖業の衰退とともに左鎮もその輝きを失っています。このゲームを通じて、私たちは親子が楽しみながら左鎮の豊かな逸話や歴史を再発見できる機会を提供したいと考えています。

キャンプの成功とリアル謎解きゲームの成果は、今後、他の地域にも展開可能なモデルとして発展させたいと考えています。これらの取り組みを通じて、左鎮の新たな活力を持続的に成長させるとともに、過去の記憶を次世代に引き継ぎ、唯一無二の未来を築くことを目指しています。



▲「左鎮少年の冒険一悪地探検」リアル謎解きキャンプ



▲「初巡左鎮：甘蔗大盜の秘密」リアル謎解きゲーム（イラスト：劉昱希）

結語：共学・共創の響き

この創新実践の旅は、まだ終わりを迎えていません。これまでに蒔かれた種は、それぞれのペースで成長を続けています。ある種は早く芽を出し、勢いよく育つ一方で、障害に直面しながらもゆっくりと成長していく種もあります。その過程で、先生方が注いでくださった経験とリソースが、種の成長を大いに助けてきました。そして最後には、美しい花が必ず咲き誇ることでしょう。

地域との共学・共創の取り組みを通じて、創聯会は、単なる技術進歩の追求にとどまらず、それを社会的な課題に応える勇気に転化させることを目指してまいります。このような協働の経験は、学校、学生自治団体、そして地域社会との関係をより豊かなものにするだけでなく、私たち若者が社会変革のプロセスに主体的に関与するきっかけともなりました。

これからも、創聯会は社会イノベーションと地域創生の分野において、学生ならではの創造力を発揮しながら、これらのプロジェクトを継続していきます。そして、共学・共創の響きが左鎮の地でいつまでも鳴り響くよう願っています。